



# 涌小通信

知内町立涌元小学校  
～重点教育目標～  
主体的・協働的に学び、  
認め・磨き・高め合う子  
平成29年9月29日発行

## 「むごい教育」を考える その1 ～これからの社会を生き抜くために何が必要か～ 校長 三上 幸喜

台風18号の接近で天候が心配された秋のお祭りも、台風一過の天気の下、小谷石地区、はまなす団地、そして涌元地区と無事終了いたしました。保護者・地域の皆様、大変お疲れ様でした。そして、ご声援、ご協力をありがとうございました。

高学年はもとより、低学年の児童も実によく頑張ったと思います。そんな、頑張った涌元小の子ども達と3日間踊りながら、この子ども達のために「むごい教育」をしてはいけないと強く感じました。本号と次号の2回に渡って「むごい教育」について考えていきたいと思います。

### 【むごい教育とは？ 戦国のエピソード】

駿河の国（静岡県）の今川義元は、松平家の竹千代（後の徳川家康）を人質に取り、「竹千代にはむごい教育をせよ。」と家来に命じました。

しばらく経った後、義元は家来を呼び竹千代の様子を尋ねました。家来は「朝は早くから起こし、三食粗末な食事を与え、昼は馬や剣術に励ませ、夜は学問と、休ませることなく厳しく教育しております。」と答えました。

それを聞いた義元は「すぐに止めろ。朝は起こさずにいつまでも寝せておけ。食事は山の幸や海の幸あふれる贅沢なご馳走を好きなだけ与えてやれ。武術や学問は決して無理強いをするな。本人の望むことは何でも与えてやれ。そうすればたいい人間は駄目になる。」と命じました。

しかし、義元の思惑通りにはならず、竹千代は人質として転々とした後、260年に及ぶ徳川幕府の礎を築きあげる人物となりました。

### 【あなたならどうしますか？ ケース・1】

○昔、デパートのおもちゃ売り場の前で、大声で泣き叫び、駄々をこねる子どもの姿が見られました。母は、周囲の目を気にしつつも子どもの「だはん」には絶対に負けませんでした。その場で、おもちゃを買い与えることはありませんでした。

泣いても、暴れても、決して自分の思い通りにはならないことを教え、我慢を経験させた。そして、大人の存在の大きさを教える機会ともなりました。  
※周囲の目を気にするあまり、子どもに根負けして、欲しい物を思わず買い与えてはいませんか？

### 【あなたならどうしますか？ ケース・2】

○森昌子さんの子育てで、息子さんの小学校の入学式の日、忘れ物がないように準備していたのに、息子さんが上履きを忘れたことに、入学式に向かう車の中で気づいたそうです。しかし、彼女は取りには戻らず、そのまま息子さんを入学式に参加させたそうです。

忘れ物という失敗を今後繰り返さないために、忘れ物をすると「困る」「恥ずかしい」という経験を本人にさせるために取りに戻らなかったとのこと。  
※我が子が「かわいそう」という思いから、親や祖父母が持たせたり、持参したりしていませんか？

「むごい」を辞書で調べると、「残酷である、無慈悲である、ひどい」とあります。ですから言葉通り受け止めると、「むごい教育」は食事を与えない、折檻をするといった児童虐待のようなことを連想されるかもしれません。しかし、そうではありません。

子どもを自由気ままに甘やかして、我慢する心、苦しさや辛さを経験する機会を奪い取ってしまうことが「むごい教育」だと読み取ることができます。子どもたちが、これからの社会を生き抜いていく（自立する）ために、今どんな力を身に付けさせなければならないのかを、みんなで考え、実践していくことや「むごい教育」とならないように常に意識していくことが大切だと思います。